

2013.05.16

「10 分間の予算委員会を終えて」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は 5 月 16 日木曜日です。昨日の予算委員会において安倍総理に 10 分間ではありますが、質問させて頂きました。ご存知のように 1 週間前の 5 月 8 日に一時間にわたって質問する予定でしたが、川口委員長の解任騒動で質問が取りやめになってしまい、昨日行いました。この質問の様子はウェブ上にアップする予定ですので、ご覧頂きたいと思います。また、10 分間でしたので、本来質問したかったことは週刊西田「幻の予算委員会」にありますのでご覧下さい。

ところで、この幻の予算委員会で質問したかったことが 7 月号の「月刊 WILL」に掲載され、また来月の「新潮 45」には京都大学の佐伯啓思先生との対談がのっています。そして、産経新聞の「正論」にも憲法論議に関して中山恭子参議院議員、渡辺周衆議院議員、江口克彦参議院議員の 4 名の対談が掲載されています。来月は様々な雑誌に私の意見が掲載されていますのでご覧下さい。そして、昨日の安倍総理への質問を終えて思ったことは、やはり安倍総理というのは、なかなか人だなということです。私が申しあげたかったことは、TPP 以前にアメリカとの日米関係を強化するということであり、またその上で、中国との間の安全保障上の問題を考えた場合、日本は自立しなければならず、自主防衛に舵を切るべきだと話をしました。安倍総理とも昔、このお話しをした

ことがあり、総理も本質的な部分では了解していると思います。しかし、総理になりますとこのようなことは国民に訴えなければならないのですが、なかなか難しいところがあります。なぜならば、前回の安倍内閣の時にも「戦後レジーム」からの脱却を掲げ、戦後の占領体制の延長線上に今の日本があるという本質的な問題を捉えていました。ところが6年前においては、総理の思いと国民の思いにはあまりにも深い溝がありました。特に、マスコミには戦後体制を守る仕組みがあり、プレスコード等がその典型です。要するに、マスコミは戦後体制を是として報じ、安倍総理が「それはおかしい。」と仰ると、彼らは「この体制を壊すのか。この体制こそ、日本は自由で平和で民主的な国家にしたんだ。」と思い込んで報道してきました。そして、徹底的に安倍叩きが行われた結果、1年で退陣をせざるを得なくなりました。今回、安倍総理は同じ轍(てつ)を踏むまいと、発言や政策も、安全運転となっています。そうせざるを得ない所もありますが、だからこそ我々与党の人間が安倍総理の訴えたいところ、すなわち今日本の置かれている状況を正しく国民に伝えて、少しでも戦後体制から脱却できる土壌を作っていくことが政治家の務めであると思います。1時間の予定が10分間になりましたので、大事なことは喋ることができませんでしたが、安倍総理との質疑の中で総理も「自分達の国は自分達で守っていく。今まで十分にできていなかったけれども、一つ一つやっていけば、アメリカも文句を言わないはずだ。」というように答弁して頂きました。これからもこのよ

うな質問を通じて、少しでも安倍総理が目指している「戦後レジームの脱却」を実現出来るようにしていきたい。そのためには、世論を醸成していくことが大切です。憲法改正の話においても、憲法 96 条の改正の問題点を議論し、憲法に由来する問題点を国民に見て頂くきっかけとして、憲法 96 条を持ち出すことにより、本当に憲法は変えられるという雰囲気を国民に示すことができたという意味では有益であったと思います。しかし、憲法に問題があると国民が感じてきているのであれば、憲法 96 条にこだわる必要はないです。本質的な問題点を国民の中で論じるべきだと思いますので、「安倍総理の目指す戦後体制からの脱却に向けての土壌作り」が我々の仕事で、これから野党ではなく、与党の議員となった私がやるべき仕事というのはそういうことだと思います。昨日の予算委員会はその手始めだったと思います。これから参議院選挙が二ヶ月以内には始まりますから、これから国会での質問の機会は少なくなると思いますが、これからも私はそういうスタンスで戦後体制から脱却できるように国民の皆様方にも訴えていきたいと思っています。ぜひ、昨日の予算委員会もご覧頂きたいと思っています。本日もご覧頂きましてありがとうございました。